

2024年6月23日 聖霊降臨後第五主日礼拝説教
「心の波も嵐となる」(マルコ4章35～41節)

○マルコ4章35～39節について

「イエスは、『向こう岸に渡ろう』と弟子たちに言われた。」(35節)
みことばに従った弟子たちは、舟を漕ぎ出し、岸から離れて行った。すると強い風が吹き始め、波も押し寄せ、舟は沈みそうになるが、眠ったままのキリストは、何もしなかった。

「弟子たちはイエスを起こして、『先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか』と言った。」(38節)

「渡ろう」と誘った神の子イエスが、共にいたから、たとえ舟が壊れても、彼らの命は守られ、向こう岸に着けたはず。

「イエスは起き上がって、風を叱り、湖に、『黙れ。静まれ』と言われた。」(39節)

※キリストは、風や波だけでなく、心の揺れも気持ちの浮き沈みも、みことばをとおして抑え、嵐へと変えられる。

今日のみことば：マルコ4章40節

「イエスは言われた。『なぜ^い怖がるのか。まだ^{こわ}信じないのか。』」
わたしたちも弟子たちのように、依り頼むべき方を見失い、すぐに恐れてしまうが、「怖がるな、信ぜよ」と語り、共にいる救い主を思い出して、仰ぎ見る神の恵みに与かろう。

「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ14章6節)
あなたの焦る思い、怖じ惑う心を、嵐を静められる神の子イエスに委ねて、この方が備える逃れと赦しの道に歩もう。

「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従う」(41節)
十字架の上でキリストは、ご自身の命をもって、湖の嵐より激しき神の怒りを鎮め、あなたと神との間を嵐とされた。

問：あなたにとって、この方は、どなたなのか？